

字幕制作の簡易化プロセス

The Simplified Process for Making Subtitles

1W173053-5 計 辰雪
JI Chenxue

指導教員 是枝 裕和
KORE-EDA Hirokazu

土田 環
TSUCHIDA Tamaki

概要：本研究では、映像編集ソフトや字幕制作ソフトなどを比較することで、字幕制作の簡易化プロセスについて考察・検証を行った。近年、デジタル技術やインターネットが発展し、様々なソフトウェアが登場したことで、映像に対する字幕制作のツールをたやすく入手することが可能となり、字幕制作の大衆化を用意する状況が出現している。本論では日本語字幕の制作プロセスを提示し、各工程について再検討しながら、代表的な字幕制作のソフトウェアを比較・分析し、字幕制作の簡易化とそのプロセスについて検証した。

キーワード：映画字幕、字幕制作方法、映像編集ソフトウェア、字幕評価

Keywords: Subtitles, Subtitle Making Method, Video Editing Software, Subtitle Evaluation

1 はじめに

字幕翻訳は、映画や映像に関わる技術的な変遷とともに変化を遂げてきた。字幕の制作方法も映像媒体の技術革新や字幕制作ソフトの導入により変化している。現在、パソコンで使用するソフトウェアが数多く存在しており、動画関連のソフトだけで100以上存在し、幅広く運用されている。デジタル技術の発展によって、字幕制作の技術の入手が容易になり、環境が整えば誰もが字幕制作に参入できる土壌は存在している。また、年間500本以上の外国語映画が日本に輸入され、字幕文化に親しみを持つ環境で、より簡易化した字幕制作の方法が確立されれば、より多くの人々が参入し、さらなる成熟した技術の出現が期待できるだろう。

本研究では、アマチュアでも可能な字幕制作のプロセスを検証するために、代表的なソフトを複数用いてじっさいに字幕制作を行い、問題点を踏まえたうえで、簡易化プロセスを提案した。

2 字幕制作のプロセス

本章では、セヴリーヌ・アンジョルラスとマガリ・ブラガールの共同監督作品『ある夏のリメイク (Reprendre l'été)』(フランス、2016)の冒頭10分間を例として取りあげ、日本語字幕の制作プロセスを4段階に分け、各段階に存在する問題点を考察した。

①素材及び翻訳テキストの受領、確認

技術が日々進歩している今、映画はよりきれいな画質で撮影されている一方、デジタル化した際のデータサイズが極めて大きくなっている。そのため、パソコンの作業スピードが遅くなり、全体の作業が滞る。

②スポッティング及び調整

台詞に合わせて字幕のタイミングを決める作業では、音声を繰り返し聞くことで、正確なタイミングを把握できるようになる。字幕制作プロセスの中で、作業量が最も大きいこの作業をより早くこなすことで、作業全体の簡易化に繋がると考えられる。

③仮ミックスの制作、修正

数字や記号など細かい修正が必要な作業で、重複な作業が多く存在しているため、いかに無駄な作業を省けるかが問題点となっている。

④字幕映像の完成

書き出しの設定だけで映像の完成度を判断できないため、設定のミスで問題ある映像が書き出される恐れがある。書き出しの時間を無駄にしないため、より簡単かつ正確に設定できるソフトが求められる。

3 簡易化プロセスの考察

2章で述べたように、一見すれば簡単に見える字幕制作も、データのサイズや台詞のタイミング決めなどの点では乗り越えるべき課題を多く残している。そこで、本章では字幕制作を簡易化するための五つの方法を提案し、ソフト

ウェアを使用した簡易化プロセスとして成り立つかどうかを同じ動画で字幕を作成しながら、考察した。

1) Adobe Premiere Pro

大きな欠点として、操作の難しさが挙げられる。Adobe Premiere は映像編集のためのソフトであるがゆえに、字幕の作成は付加機能の中の一つでしかない。まとめて文字の内容や位置に対する修正ができないため、繰り返しの確認と修正作業が非常に煩わしくなっている。

2) Wondershare Filmora

Adobe Premiere と字幕の作成方法が似ていて、調整の煩わしさなどの欠点が共通して存在する。しかし、一つの項目の中で全体の字幕を作成できるため、より調整しやすくなっている。ただ、台詞に合わせて字幕のタイミングを決めることでは、Adobe Premiere より難しくなっている。

3) Aegisub と VLC media player

字幕ファイルが実際に動画ファイルと結合するのではなく、メディアプレイヤーで動画ファイルと同時に再生するため、再生中にタイムラグや位置のズレを生む可能性がある。上映に適する完成度になるとは言い難い。

4) Aegisub と MediaCoder

動画変換ソフト MediaCoder が Windows のみに対応しているため、Mac では再生するプレイヤーによって映像に問題が生じる場合がある。また、設定できる項目が多いため、全部の項目を理解できる人が少なく、操作の難しさに繋がっている。

5) Aegisub と Marubox Tools

MediaCoder に比べると、設定できる項目が少ないため、簡単に使いこなせるが、繊細な調整が必要となる場合は対応できない恐れがある。

4 簡易化プロセスの検証

『ある夏のリメイク』から5分間のシーンを選び、実際に五つの方法で字幕動画を作成し、検証を行った。

初回作業時、通常修正が必要な文字や表記などの問題を設置した。問題箇所をそれぞれのソフトで修正した結果、修正箇所の操作数および全体作業の所要時間について以下の結論が得られた。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|--------|----|----|----|----|-----|
| 初回作業 | 35 | 30 | 21 | 21 | 21 |
| 修正作業 | 29 | 20 | 12 | 12 | 12 |
| 設定作業 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0.5 |
| 書き出し作業 | 2 | 2 | 0 | 10 | 17 |

表1：各種字幕制作方法の各作業の所要時間(分)

| | Adobe Premiere | Wondershare Filmora | Aegisub |
|-------------|-------------------|------------------------|---------|
| 誤字脱字 | 28 | 20 | 19 |
| 斜体 | 22 | 17 | 16 |
| 2桁以上の 数字 | 40 | 42 | 49 |
| — | 18 | 17 | 7 |
| “ ” | 23 | 20 | 11 |
| 位置 | 312 | 112 | 8 |
| 文字サイズ | 310 | 4 | 4 |

表2：各種字幕制作方法の修正作業の必要操作数

所要時間では、字幕制作に特化したソフト Aegisub の優位性を証明したと言える。また、記号や数字など表記の問題点を最も少ない操作数で解決したのは Aegisub である。

完成度においても、Aegisub と Marubox Tools は動画ファイルと字幕ファイルの結合にかなりの時間がかかること以外に、目立つ問題点が見当たらないため、実用が可能と判断できる。

5 結論

現時点では、筆者が調査した限りにおいて、Aegisub と Marubox Tools の二つのソフトを使用する方法が最も簡易に字幕制作を行うことができる。また、今後字幕の需要が増えることで、書き出しの機能付きの字幕制作ソフトや字幕ファイルがそのまま導入できる映像編集ソフトなど、さらなる簡易化に繋がるソフトが現れるだろう。

参考文献（抜粋）

- ・篠原有子（2018）『映画字幕の翻訳学』（晃洋書房）
- ・清水俊二（1988）『映画字幕の作り方教えます』、文芸春秋